

在宅医療

～在宅医療・訪問診療をもっと身近に～

人を結び、それぞれの願いを
結実するために、みんなで支え合う
在宅医療の情報紙

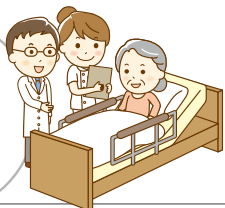
在宅医療情報紙

結

令和元年6月発行 企画・編集 / 在宅医療を続けて20年 土井医院

1. 病気や身体が不調になった時、治す方法は次の3通りですね！

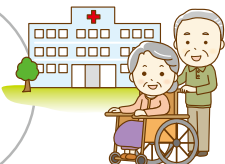
入院
タイプ



専門の医療チームや充実した医療機器が整った環境の中で、集中的にしっかり治療する。

患者さんのケアは看護師

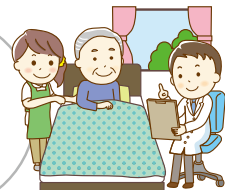
通院
タイプ



病気の状態が安定しており、定期的に自宅から病院に通って診察・投薬・検査を受け治療する。

ケアは主に家族が行い介護スタッフがサポートする場合も

在宅
タイプ



病気・障害などで通院が難しい方は、医師が普段生活している場に定期的に訪問し、治療する。緊急時の往診対応可能。

ケアは家族もしくは訪問看護師などが行う

基本を
押さえよう！



最近の
傾向は

ハイブリッド(混合)タイプ

在宅タイプで過ごしている中で、病気の変化や重点治療のために一時的な入院を繰り返すタイプが増えてきています。

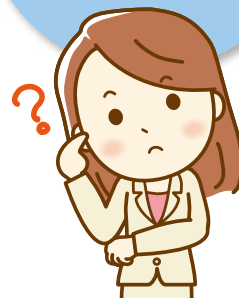


上手に使い分け

2. 在宅医療って最近よく耳にするけれど、 2. どういうケースの時にいいの？

- 患者さんが繰り返し病院の入退院・介護施設の入退所している場合
- 患者さんが自力歩行や自分で身の回りのことが困難である場合
- 認知症の患者さんが独居及び日中に家族の目が行き届かない場合
- 患者さんや家族が自宅等で看取りを強く希望している場合
- 家族が付き添って患者さんの通院を行っている場合
- 患者さんの入院先から退院を迫られている場合
- がんの終末期における身体的苦痛、精神的苦痛など様々な症状に対応する緩和ケアを希望している場合

知っておこう



3. 在宅医療のお医者さんってどんな先生？

任せて安心

病院や医院は一般的に医師が専門とする診療科(内科、皮膚科、整形外科等)が明らかになっています。一方、在宅医療の医師(在宅療養支援診療所)は、専門性を持ちえた上で、認知症・難病・がんの緩和ケアなど様々な病状に対応する研究や医療経験があるので、患者さんに対して総合的な診察が可能です。さらに、診察時必要があれば、総合病院への救急搬送の手配を行ったり、退院直後の自宅での受け入れもサポートします。当然、総合病院とも連携をしっかりとって患者さんの医療情報を共有しています。



また、在宅医療は訪問する患者さんの家まで、医師がすぐに駆け付けることができるようにエリアを限定しているため、より地域密着型の医療機関になります。つまり、患者さんのお住いの地域で「安心して、安定した療養」のために在宅医療の医師は、医療と介護との連携チームにおいても重要な役割を担っています。

ワンポイントガイド

在宅療養支援診療所って？



- 1 **24時間365日**連絡がとれて、緊急時でも医師の往診を行います。
- 2 住み慣れた家に医師が訪問し、定期的かつ計画的に診療を行い、患者さんご自身の**生活スタイル**を支援します。
- 3 家族や身近な方に囲まれた**看取り**を見据えた療養の支援を行います。
- 4 患者さんだけでなく、**家族の様子にも目を配り**、長期的にすべての人の健やかな状態が続くようにアドバイスします。
- 5 病院などの**医療機関や介護サービス事業所などと連携**し、患者さんと家族の最適環境をサポートします。

4. 在宅医療と医療保険(健康保険)・介護保険との関係性について

知っておこう

在宅医療は、医療保険と介護保険の二つを相乗的に活用して、患者さんに総合的な在宅療養支援を行います。それぞれの保険の特性を活用し、自宅等での治療・療養に最適な環境や人的サポートを組み立てていきます。患者さんの費用は、双方の保険の自己負担額でそれぞれ算出されます。さらに、1か月の医療費が高額になり、自己負担額が大きくなった場合には高額療養費制度が適用されます。



医療保険は

定期的な医師の訪問診療や緊急時の往診などに適用されます。

介護保険は

「居宅サービス」として訪問看護、訪問介護、訪問リハビリテーション、車椅子などの福祉用具の貸与。また、手すりの取り付けなどの「住宅改修」や「特定福祉用具の購入」に適用されます。

5. 在宅医療を行っている医療機関の調べ方は？

調べてみよう

- ・入院している病院の医療連携室・相談室・医療ソーシャルワーカー
- ・各市区町村役所の介護保険担当窓口
- ・地域包括支援センター
- ・ケアマネージャー(居宅介護支援事業所)
- ・訪問看護ステーション
- ・各市区町村保健所 など



病院から
「そろそろ退院」と言われたけれど
先のことが不安・・・

自分で早く
退院したいと
言っていたけれど・・・
いざ帰るとなると
なんだか不安

退院する夫の気持ちを考えたら・・・
家で子ども達といたいに決まっている
夫がどうしたら安心してすごせるのかを
考えるのが一番じゃないかしら
・・・なのに・・・
いざ退院と聞くとすごく不安でこわい
現実から逃げたくなる
自分が情けない

家に帰りたい!
でも・・・

家に帰ってあげたい!
でも・・・



結 の 雑 感

在宅医療という言葉が世の中になじんできた時代ですが、在宅医療を「体調が悪くなった時、かかりつけのお医者さんに夜中に往診（その時だけ）に来てもらう」というイメージで理解されている方もあります。

大抵の方はそうなのかも知れませんが……。

私たちは健康で元気に自分の大好きな住み慣れたところでいつまでも暮らしていきたいと願っています。時として、風邪をひいたり、ケガをしたりすることもありますが、その都度、自身の治癒力と医療のチカラで完治し、健やかな状態を取り戻してきます。

だから、在宅医療を身近に考える機会があまりなかったのかもしれない。

しかしながら、予期せぬ病気を患い体の一部の機能を失ったり、現在の医学では病気の進行を抑えることしかできず、ながい長い治療・療養を強い

られる方もあります。病院のベッドに身を沈め、治療などに耐えながら漠然とした心細い時間が過ぎてゆく中で、自分を奮い立たせ、明るく前向きに一日一日を過ごすことは容易ではないはずです。

ところが、医療的にある一定の条件や制約のもと、自宅などの住み慣れた所で治療や療養することができれば、病気と長く向き合う関係から、いつまでも共に生きる関係へと変わるのではないのでしょうか。

みなさんが住んでおられる家や部屋



「在宅医療は希望」

を思い浮かべてみてください。自分の気に入ったものや思い出の品々、自分で手間暇かけて便利に暮らしてきてきた空間があるはず。そしてそこには、自分を暖かく包んでくれる家族や親しい人の声や顔が浮かぶのではないのでしょうか。

このような場所でいつまでも暮らしながら治療や療養ができれば、一日一日と笑顔があふれ、明日また明日へと希望が芽生え、元気を取りもどされる方が多くあります。これこそが在宅医療の大きな魅力だと考えられています。

ある日、一人の在宅療養支援診療所の医師が私に語ってくれました。「在宅医は患者さんを好きになるところから始まるんだ。だって好きになった人のことは気になって仕方がないでしょ（笑）。これが在宅医療を究めていく極意だよ。」こう話す医師は医療を通して、多くの人を愛し、寄り添い続けておられるのだとしみじみ感じました。その瞳は優しさがあふれ、とても素敵な笑顔がこぼれていました。

このような医師のもとでの在宅医療は、患者さんやその家族にとって大きな希望となるでしょう。

